

「あいまいな喪失」

事例検討会

「あいまいな喪失 (ambiguous loss)」とは、家族が行方不明の場合や、家族が認知症となり以前のその人ではないように感じる場合、あるいは故郷の町があるにもかかわらず、帰ることができない場合などをさします。この事例検討会は、あいまいな喪失の理論と介入方法を提唱している Pauline Boss 博士からコンサルテーションを受け、実際の事例を通して支援のあり方を学ぶ研修会です。2019年3月、Boss 博士の考え方が「あいまいな喪失と家族のレジリエンス～災害支援の新しいアプローチ～」(誠信書房刊)という1冊の本にまとめられました。今回の事例検討会では、その本の中で用いられている支援のステップにそって、あいまいな喪失をかかえる家族に対する具体的な支援方法を検討します。

Pauline Boss 博士 (ミネソタ大学)

ミネソタ大学名誉教授。「あいまいな喪失 (ambiguous loss) の理論と介入方法」の提唱者。行方不明者の家族、認知症患者の家族など、あいまいな喪失に苦しむさまざまな家族の支援経験をもつ。翻訳書に『『さよなら』のない別れ、別れのない『さよなら』』学文社、「認知症の人を愛すること」誠信書房、「あいまいな喪失とトラウマからの回復：家族とコミュニティのレジリエンス」誠信書房がある。

日時：2019年11月9日(土) 10時～16時 (受付9時30分開始)

対象：あいまいな喪失の支援に関わっている、あるいは今後関わりたいと考えている専門職・専門家 (保健師、看護師、医師、臨床心理士、精神保健福祉士、社会福祉士、行政職員等)

定員：70名 (申し込み多数の場合は、現在、直接支援されている方を優先させていただきます)

内容：「あいまいな喪失理論の講義」、「震災後、複数のあいまいな喪失をかかえる学生とその家族の事例検討」、「グループ・ディスカッション」

資料代：2,000円

場所：福島大学人間発達文化学類附属学校臨床支援センター (福島市金谷川1番地)

・事例検討会のお申し込みは、JDGS Project のホームページ「あいまいな喪失情報ウェブサイト <http://al.jdgs.jp/>」にあるく申し込み専用フォーム>からお申し込みください。

・専用フォームにアクセス出来ない場合は、jdgs.project@gmail.comにてお申し込みください。



お問い合わせ先：JDGS プロジェクト事務局・福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座 瀬藤乃理子 jdgs.project@gmail.com

主催：JDGS (Japan Disaster Grief Support) Project

共催：日本家族療法学会、福島大学子どものメンタルヘルス支援事業推進室、福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座

後援：ふくしま被害者支援センター、ふくしま心のケアセンター、NPO 法人子どもグリーフサポートステーション、NPO 法人仙台グリーフケア研究会

※本プログラムは、日本家族療法学会、福島大学子どものメンタルヘルス支援事業推進室、ふくしま被害者支援センターの助成を受け運営されています。